

876 中央大学相撲部選手の奮闘

〔『法学新報』第35卷12（407）号 大正14年12月1日〕

○中央大学相撲部選手の奮闘 本学相撲部は去る十月三十一日十一月一日の両日神宮外苑に於て挙行せられたる第二回明治神宮競技大会相撲大会に先鋒川島晴喜四将上野茂美三将三浦庄九郎副将梶原朋美主将鈴木幸夫のメンバーの下に上記五選手を派遣せり元来本学相撲部は質実剛健なる校風の中に胎胚せられ出生したるものにして何処までも堅実なる理想を求めて止まず他校相撲部の職業的売名的なると其の出生に於て将又其の理想に於て遠く趣を異にするは周知の事実なり抑々勝負の目的は敵を斃すの一事に尽るものに非ず堅忍不拔の精神を以て正々堂々と戦ひ潔よく斃るる所にも亦より高遠なるより麗しき目的は存す吾か選手か勝負そのものを度外視し終始よく其の精神を忘れず学生たるの本領を守り飽くまで剛健なる精神と燃ゆるか如き愛校心よりほとはしり出つる意気と力とを以て戦ひたるは誠に多とする所なり殊に出場選手の奮闘は東京薬学専門学校日本大学に全勝し亦個人優勝者と

して梶原川島の二人を残し得た事は本学相撲部にとつて実に特筆大書すべき大収穫と言ふへし其の戦跡は次の如し、第一回戦、大阪齒科四―一中央大学、第二回戦、同志社大学四―一中央大学、第三回戦、中央大学五―〇東京薬専、第四回戦、中央大学五―〇日本大学、第五回戦、体操学校三―二中央大学